

Philippines



フィリピン英語留学案内



English as a
Second
Language



IT'S MORE FUN IN THE
PHILIPPINES



<フィリピン政府観光省からのメッセージ>

微笑みの国、フィリピンへようこそ！

フィリピンの7,107の島々では、島の数だけ様々な魅力を持っています。

白いビーチとターコイズブルーの海が広がる極上のリゾート、
ヒロットに代表されるスパでの癒し体験、トロピカルフルーツ、

東洋と西洋の文化の面影を現れる街並みなど

フィリピンには色とりどりの魅力と発見があります。

短期でも確実に身に着くと評判の、

フィリピンでの英語留学は

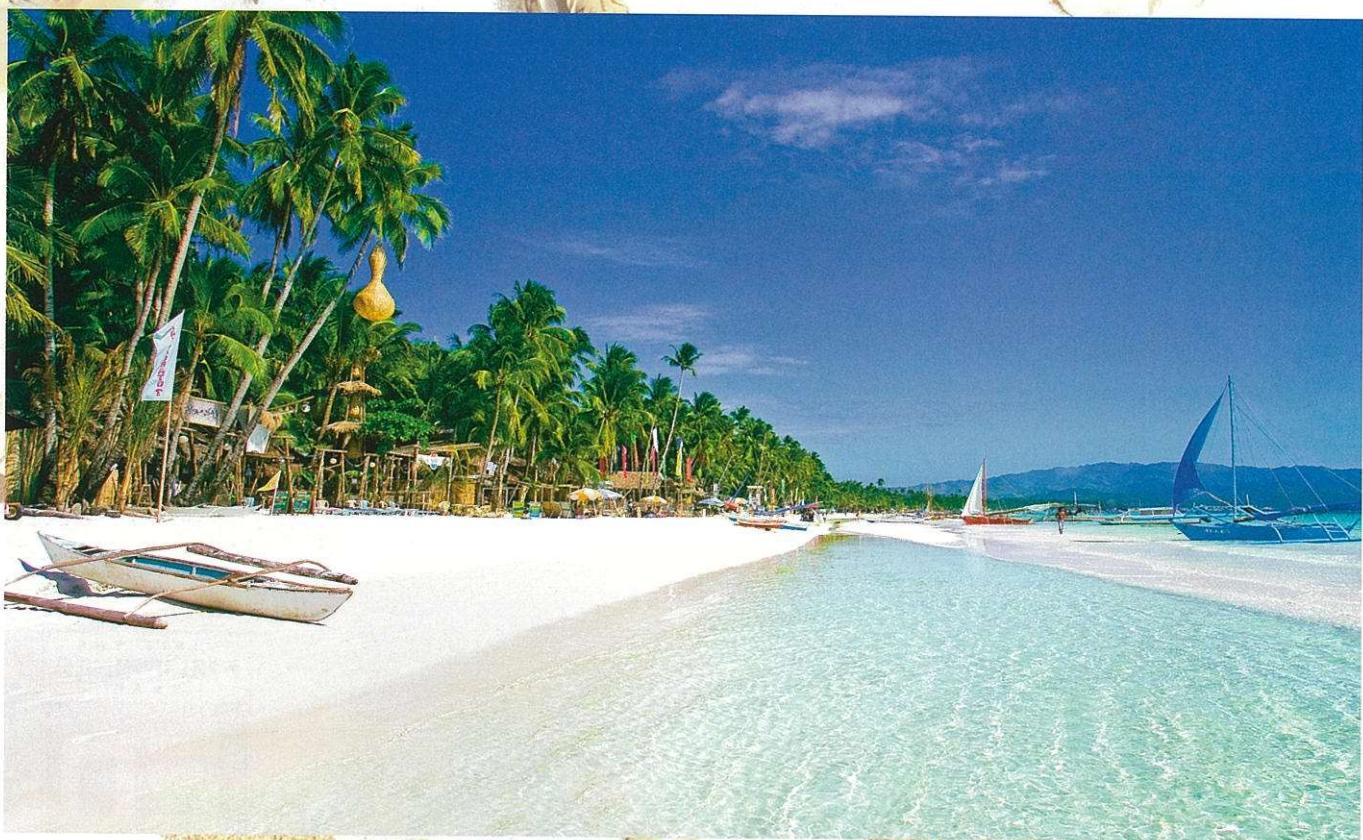
多くの方にご利用いただいております。

心からのおもてなしと多彩なプレミアム体験で、

ぜひフィリピンでの滞在をお楽しみください。

マブハイ！

もっと楽しい
フィリピン  It's more fun in the Philippines



目 次

メッセージ	2	留学プログラム例 Part 2	10
何故、フィリピンなのか？		もっと楽しいフィリピンを満喫！学んだ英語を実践する	
フィリピンは世界有数の英語国！	3	世界遺産／マリンスポーツ／ロングステイ	12
フィリピンの魅力		フィリピン留学の基礎知識	
フィリピン英語留学のメリット／フィリピンって、どんな国？	4	フィリピン留学に必要な手続き	14
留学プログラム例 Part 1	6	フィリピン留学よくある質問／フィリピン・トラベルメモ	15
英語学校があるフィリピンの都市	8		

英語留学：何故、フィリピンなのか？

フィリピンは世界有数の英語国！

フィリピンはアジアで最も進歩的な民主主義国家の一つであり、今までダイナミックな経済発展を遂げてきました。特に近年では、アジアの中でもトップクラスの経済成長率を達成しています。

日本はフィリピン最大の貿易相手国で、2012年の輸出入総額はフィリピンの国際貿易の約15%を占めています。また、日本からの海外投資も増えて

おり、フィリピンに対する日本企業の関心と信頼は高まる一方です。こうした日本とフィリピンの経済的な絆を強固なものとしている一因として、各企業の関係者が一様に口を揃えて指摘するのは「**フィリピンは英語が通じる**」ということです。その言葉通り、**英語はフィリピンの公用語**であり、フィリピン国民のほとんどが英語を話し、理解します。

フィリピンの英語力の証明

フィリピンのビジネス英語力は世界のトップレベル！

アメリカ・カリフォルニア州に本社を置き、オンラインのビジネス英会話学習ソフトウェアを提供しているグローバルイングリッシュ社(Global English)は、2013年4月23日、国別にビジネス英語能力を評価する「ビジネス英語指数(BEI - Business English Index)」の2013年版を発表しましたが、**世界で最もビジネス英語能力が高い国として「フィリピン」が最上位に入りました。**

7.95点と、最もスコアが高かったフィリピンは、留学や企業の英語研修が盛んに行なわれ、近年日本でも注目が集まっています。特に高い英語能力に加え、物価・人件費の安さなどビジネス上の利点も多く、メトロ・マニラやセブ市には多国籍企業のコールセンターが集中しています。

この他、BEIのスコアの上位は、ノルウェー(7.06)、オランダ(7.03)などヨーロッパの国が占めています。一方、日本のスコアは4.29点で、他のアジア諸国と比較しても低く、アジアの最下位水準となっています。TOEFLやTOEICのスコアを昇進条件にする企業や、企業内の公用語を英語にするなど、グローバル化を強く意識した企業が現れる中、改めて日本の英語力の低さを示す結果となりましたが、逆に距離的にも日本からも近く(空路約4時間)、政治・経済的にも友好関係にあるフィリピンへの英語留学が俄然注目を集めています。

BEIとは？

BEIは、非ネイティブスピーカーの実際的なビジネス英語能力を国別に評価することから、グローバル企業が拠点を置く際に考慮するひとつの指標とされています。同様の指標として、TOEICの国別平均スコアがありますが、TOEICの受験者が日本や韓国などアジア地域に偏りがある反面、BEIは世界78の国と地域、137,000人を対象に調査をしているため、よりグローバルな比較が可能になっています。なお、英語を公用語としている国でも、国内に英語の非ネイティブスピーカーがいるため、アメリカやイギリスなども調査対象に含まれています。BEIの評価はスコアごとに10段階に分けられ、さらにそのスコアに応じて4つのレベルに分類されます。

今、世界中で一番活気がある コールセンター市場は、フィリピンです！

フィリピンのコールセンター・ビジネスは、アメリカ、日本、インドと共に目覚ましい成長を見せています。その市場の大半は、米国企業のBPOビジネスをフィリピンで対応するというもので、例えば、マイクロソフト、IBM、シティバンク、デル、HSBC、TA&Tなどは、全てフィリピンでコールセンター運営をしており、日系のパナソニックUSAもその一つです。

フィリピンが、コールセンター業務でインドを抜いてトップの座に躍り出た最大の理由は「**英語に堪能な人材が豊富である**」ことと、「**国民の人柄が明るく陽気なため顧客サービスに適している**」こと、そしてその「**優れたコスト競争力=高品質かつ低コスト**」が指摘されています。こうした点はフィリピンの英語留学にも共通しており、英語学校の所在地である、バギオ、クラーク、メトロ・マニラ、セブ、バコロド、イロイロ、ダバオ等の各都市にもコールセンターの進出が活発化しています。

因みに、フィリピンではコールセンターの入っているビルは日本で言うと、六本木ヒルズのような存在で、一種のシンボルタワーになっています。『コールセンターの仕事の休憩時間に、『スターバックス』でコーヒーを飲む』、このスタイルがフィリピンで今、『一番かっこいい』とされています。フィリピンの英語力は、こうしたフィリピン国民のライフスタイルの支えになっています。



多くのコールセンターが進出するマニラのマカティ地区

フィリピンの魅力

フィリピン英語留学のメリット

①公用語が英語である

②日本から近い－短期間留学が可能。

③費用が安い 一例：フィリピン4週間 約15万円、欧米なら4週間 約50万円。
物価も日本の約半分～3分の1。

④マンツーマン・システムだから中身が濃い

日本や欧米では生徒10～20人に先生1人が一般的。

⑤安心して、楽しめる留学生活

1)ほとんどの学校に日本人スタッフが駐在しています。

2)フィリピン人のポスピタリティ(おもてなし)精神と協調性。

3)週末やカリキュラム終了後の体験ツアーで、もっと楽しいフィリピンを満喫できます。

フィリピンって、どんな国？

◆正式国名：フィリピン共和国

Republic of the Philippines

◆首都：マニラ Manila。第2の都市はリゾート地として有名なセブ市。

◆人口：9,860万人(2013年国連人口動態・推計値)

◆政治体制：共和国(国家元首は大統領)

◆言語：国語はフィリピノ語。英語は公用語として、政治、経済・ビジネス等の分野で広く使われています。

◆地理：東経117度から126度、北緯4度から20度の亜熱帯～熱帯区域に大小7,107の島々が点在しています。総面積は約30万km²で、日本の北海道を除いた広さです。ルソン島、ミンダナオ島、サマール島、ネグロス島など主な11島だけで総面積の90%以上を占めています。また、約50の火山があり、20世紀における最大規模の大噴火を引き起こしたピナツボ火山(1,486m、噴火前は1,745m)、タール火山(311m)、マヨン火山(2,450m)、アポ火山(2,965m)など活火山が多くあります。周辺に散在するサンゴ礁の美しさには定評があり、世界中のダイバーの憧れの地でもあります。

◆日本からフィリピンへ：日本の東京、大阪、名古屋、福岡の各都市からマニラには、主要航空会社各社が直行便を運航、所要約4時間。東京、名古屋、大阪からセブにはフィリピン航空が直行便を運航していて、所要約5時間。

◆フィリピン国内の交通機関：マニラを基点にセブ他の主要都市を国内線各社が結んでいます。(その他の交通機関については15頁「トラベルメモ」参照)

フィリピンの横顔

フィリピンは歴史的にヨーロッパ(スペイン)とアメリカの影響を受け、それにアジアの生活様式が一堂に会し、また、アジア唯一のカトリック教国という非常にユニークかつ魅力的な国です。また、近年の経済成長には眼をみはるものがあり、2012年には6.8%の経済成長を達成しましたが、引き続き7%台のGDP成長率が見込まれています。

国 民

アジアに起源を持つマレー系、インドネシア系、ネグリート系の民族の混血で、スペイン統治時代にはスペインとの混血もかなり増えました。そのため、日常の風習や生活様式にもスペイン、メキシコなどのラテン系諸国と似たところが見られます。

フィリピンの人口は9,860万人(2013年国連人口動態・推計値)、人口増加率は年2%前後で、2014年には1億人を突破すると推計されています。

メトロ・マニラの人口は約1,155万人で、人口の都市化が進んでいます。また、全人口の約5%にあたる400～450万人は、山岳民族や水上生活者の少数民族で、ルソン島北部やミンダナオ島南部で、固有の文化と言語を持ち生活しています。

政治と経済

1986年2月、コラソン・アキノ大統領が誕生し、自由と人権を回復。その後、ラモス大統領、エストラダ大統領、アロヨ大統領と続き、2010年6月

にはベニグノ・アキノJr.大統領が誕生し、政治的安定を維持するとともに経済的発展を推進し、近年、目覚ましい経済成長を遂げています。

これまでの主要産業はココナツ、バナナ、パイナップル、アバカ(マニラ麻)、タバコ、砂糖等の農業でしたが、最近ではセブ、マクタン島やスビック、クラーク、さらにマニラ近郊のカビテ、ラグナ、バタンガス等の輸出加工特別区には自動車、カメラ、その他のIT関連の工業団地が続々と建設されています。

また、フィリピン国民の英語力や協調性、コスト競争力を活用したBPO (Business Process Outsourcing) 分野では著しい成長を遂げていますが、中でもコールセンター業務では世界ナンバーワンの業績を示しています。

観光業

観光産業も有力な外貨獲得源になっています。フィリピンを訪れる観光客は年間400万人以上で、日本人観光客はその約10%です。政府も観光関連事業に力を入れており、国際会議やリタイアメント&ロングステイ、英語留学等の誘致にも積極的に取り組んでいます。

言語

111の言語、文化、民族グループがあり、87の言語が話されています。主な言語グループは、タガログ(マニラ周辺)、セブアノ(ビサヤ地方)、イロカノ(北部ルソン)、ビコール(南部ルソン)、ワライ、パンガシナン、マラナオなどで、マレー語系のタガログを基礎とするフィリピノ語を国語に定めています。公用語である英語も小学生から教えられており、共通語として全国的に通じます。かつて公用語であったスペイン語は次第に使われなくなっています。

宗教

アジア唯一のカトリック教国。全体の約93%がキリスト教徒で、その内の約83%がローマン・カトリック教徒です。イスラム教徒は全体の約4～5%で、ミンダナオ島の一部地域に限られています。仏教徒は1～2%。キリスト教の中では、プロテstant=新教(5%)、独立教会=アグリバイ派(3%)、イグレシア・ニ・クリスト教(2%)のほか、貧困層の心を捉えたエルシャダイが、メトロ・マニラを中心に急激に会員数を増やしつつあります。

教育

フィリピンの義務教育は、幼稚園1年、小学校6年、中学校4年、高校2年。その後、大学4年、大学院2年以上となっています。私立、公立あわせて600余の単科大学と総合大学があります。

フィリピン大学(UP)、サント・トーマス大学(UST)、アテネオ大学、ラサール大学等々が有名で

す。フィリピンの学校年は6月に始まり、3月に終ります。大学は6～10月、11～3月の年2学期制。

歴史

フィリピンの歴史は、①スペイン統治以前(1521年以前)、②スペイン統治時代(1521～1898年)、③アメリカ統治時代(1898～1945年)、④独立以後(1946年以後)の4つに大別できます。

文化的にもユニークです。素朴な民家に代表される土着文化、世界遺産にも登録されているバロック風のカトリック教会はスペインがもたらしたヨーロッパ文化の象徴であり、近代的な学校校舎と学校教育はアメリカ文化を代表しています。なかでも、約350年のスペイン統治時代の文化と伝統は、言語をはじめ今もなお国民の日常生活に根強く残っています。また、スペイン以前にもたらされたイスラム文化は、庶民の足“ジープニー”の極彩色の装飾にも影響を与えていると言われています。

国民性

フィリピン国民の性格は、様々な文化が入り混じったものと言えます。“バヤニハン”として知られる血族や友愛を重んじる心はマレー系の祖先から受け継いだものであり、親密な家族関係は中国人から受け継いでいます。そして、敬虔な宗教心は16世紀にスペイン人がもたらしたキリスト教の影響を受けたものです。特にスペインとは長い交流があったため、フィリピン国民は生き方に関しては、アジア人というよりもラテン民族と思えるほど感情的かつ情熱的です。

また、東南アジアの中で最もフィリピン国民を際立たせているのが“フィリピーノ・ホスピタリティー”(おもてなしの心)。これはほとんどのフィリピン国民の性格に共通したものであり、これがフィリピン人の大きな特徴となっています。このフィリピーノ・ホスピタリティーに内包される協調性と持ち前の英語力が、英語留学の講師の条件に最適であり、また、コールセンター業務や海外でも看護・介護士等のビジネスに適していると言われる最大の理由です。

気候

フィリピンの気候は、亜熱帯～熱帯性で、一年を通して暑く、暖かいです。季節は「11～2月の涼しい乾期」、「3～5月の暑い乾期」、「6～10月の比較的雨の多い時期」の3つに分かれます。マニラの気温は21～32°Cで、年平均気温は27°Cです。最も涼しい月は1月、最も暑い月は5月です。気温・湿度とも4月と5月が高くなります。一年中、夏物でOKですが、高原都市のバギオや北部ルソンの山岳地方は真夏の季節でも防寒除けのカーディガンや薄手のセーター持参は必須。また、マニラ以外の都市でも、冷房除けにカーディガンがあると安心です。

留学プログラム例

Part1

一般コース例

マンツーマンやグループレッスンに加え、無料でオプションの授業を選べることも。無料オプションコースには、TOEFL講座、TOEIC講座、発音矯正、映画鑑賞、CNNクラス等があります。

内容	授業時間
マンツーマンレッスン	4時間
グループレッスン	2時間
無料オプションコース	2時間
合計	8時間

フィリピンの留学プログラムの基本は“マンツーマン”、充実した授業が受けられます。



TOEFL 対策コース例

TOEFLに特化した講師をはじめ、スコアアップを目指す内容で構成されています。模擬テストなどのほか、義務自習が設けられているところも多いです。

内容	授業時間
マンツーマンレッスン	4時間
グループレッスン	2時間
小テスト	1時間
義務自習	1時間
合計	8時間

TOEIC 対策コース例

TOEICに特化した講師をはじめ、英単語や文法などもTOEICに役立つ内容を網羅。TOEFL対策コースと同様に、模擬テストなどを受けられる学校もあります。

内容	授業時間
マンツーマンレッスン	4時間
グループレッスン	2時間
小テスト	1時間
義務自習	1時間
合計	8時間



週末や休日のボランティア活動や小旅行も楽しみです。（上）一般的な学生寮（ドミトリ）の部屋とロビーの風景。（下）



留学の前後に オンライン英会話を活用しよう

フィリピンでは、英語留学と同様に、**Skype (スカイプ)を使ったオンライン英会話**が盛んです。留学中にどれだけ英語力が伸びるかは、スタート時点の英語力によって変わります。留学前に、オンライン英会話でレベルを少しでも上げておくことで、短時間で英語力を伸ばすことができます。

また、留学で英語力を身に付けても、日本に戻ってから英語を使わないでいるとあっという間に英語力は下がってしまいます。せっかく伸ばした英語力をキープするためにもオンライン英会話は効果的です。フィリピンへの英語留学とオンライン英会話を上手に組み合わせて、効率よく英語力を向上させましょう。

留学体験談①

一般コース セブ島4週間 R. N.さん

フィリピン留学をホームページで知ったときは怪しいと思い、他の場所にしようか正直迷いました(笑)。しかし、値段の安さ・マンツーマン授業・授業量(数)に惹かれ、思いきって一人で申し込むことにしました。場所がフィリピンという事もあり、たった一人で1ヶ月も生活できるか不安でいっぱいでしたが、到着して1週間も経てば、すっかり現地に溶け込んでいました。良い友達とも出会うことができて、一生の思い出となる留学になりました。

<授業>

授業は1:1、1:4、1:8のクラスがあり、かなり充実していました。1:1では一人一人に合わせた授業をしてくれるので、自分の伸ばしたい部分を重点的に学ぶ事ができます。グループレッスンでは他の生徒とディスカッションをしたりして、外国人の友達もたくさん作る事ができました。

<部屋>

私は2人部屋を利用しました。韓国人の方と同室で、夜に宿題のチェックをお互いにしたり、双方の国のことや文化について話をしたりしました。長い期間同じ部屋だったこともあり、今となってはかけがいのない友達の1人となりました。現在もFacebookなどで連絡を取り合っています。

<授業後・休日>

授業の後や週末は、ジプニー・タクシーでいろんな場所に遊びに行きました。ジプニーは主に現地

の人が利用する乗り物なので危険に思われがちですが、近くのショッピングモールなどには10円程度で行く事ができ便利なので、私達はよく利用していました。タクシーもワンメーター50円程度と激安なので気軽に利用できます。ショッピングモールはとても大きく何でも揃っているので、必要なものは大体そこで買う事ができます。また、マッサージは1時間、たった300円程度なので本当におすすめです。海は学校から少し離れているので気軽に行く事はできませんが、週末を利用して近くの島などに行けばきれいな海で遊べるし、アイランドホッピングは海もきれいでシーフード料理もおいしいので参加してみるのもいいと思います。

寮の食事については、決して豪華というわけではありませんが、マンゴーなどおいしい果物もですし、また、外の食事はとてもおいしく、気分転換にもなるので夜はよく外食していました。

留学体験談②

TOEICコース マニラ4週間 M. O.さん

就職の際にTOEICのスコアが必要な企業も増えてきたということで、フィリピン留学でTOEICを鍛えようと思いマニラの学校へ留学しました。出発の前日はドキドキして眠ることができませんでしたが、想像していたより早く溶け込むことができ安心しました。フィリピンの人は本当にフレンドリーで良い人が多いです！

<授業>

TOEICコースはマンツーマン3時間、グループレッスン4時間、模擬テスト1時間、義務自習2時間といった内容です。模擬テストがあるため、自分のレベルを知り、目標を決めて学習することができたので、TOEICに対する意欲も上がりました。マンツーマン授業では嫌でも英語で会話しないといけないので、英語に対するコミュニケーションスキルも上がったと思います。

<寮・部屋>

寮は1人部屋でした。プライバシーが守られているので安心して落ち着くことができました。部屋に対して不満はありませんでした。ご飯は韓国食が多かったですが、そこまで辛くなく、苦もなく食べることができました。寮から歩いて行ける距離のショッピングセンターに日本食料理店があるので、よく食べに行っていました。やはり日本食は恋しくなります！(笑)

<休日>

休日は学校のツアーでボラカイ島へ行きました。日本では考えられないくらい海が綺麗でリフレッシュすることができ、一生の思い出になりました！今でもボラカイへ帰りたくなります！

<感想>

留学前のTOEICスコアが485点で、留学後に受けたスコアが710点でした。4週間で200点以上上げることができたので非常に満足しています。スコアも嬉しかったですが、フィリピン留学に行ってから英語に対する勉強意欲もかなり出てきて、何よりも英語に対する抵抗が無くなりました。それが何よりの収穫かなと思います。フィリピンの人はとても陽気でフレンドリーで、行く前はフィリピンって、大丈夫？といった感じでしたが、帰国する頃にはフィリピンのことが好きで好きでたまらなくなりました。本当にやって良かったです！

留学プログラム例

Part2

スバルタコース例

通常のマンツーマンやグループでの長時間のレッスンに加え、担当講師の監視下での強制的な自習時間が設けられているのが特長です。

内容	授業時間
マンツーマンレッスン	5時間
グループレッスン	3時間
義務実習	2時間
合計	10時間



ジュニアの授業もマンツーマンで、各自のレベルに合わせて行われるので安心。

グループレッスンでは他の生徒とディスカッションしたりして、外国人の友達をたくさん作ることができます。

ビジネス英会話コース例

ビジネスシーンで起こる対応法、英文メールや英文資料の作成、英語でのプレゼンテーションの仕方などを学びます。

内容	授業時間
マンツーマンレッスン	4時間
グループレッスン	2時間
義務自習	2時間
合計	8時間

シニア留学コース例

1日4時間ほどの比較的余裕のあるスケジュールで、無理をせず、ゆったりとそれぞれのペースに合わせて英語を学べます。

内容	授業時間
マンツーマンレッスン	2時間
グループレッスン	2時間
合計	4時間



ジュニア留学コース例

通常のマンツーマンやグループでのレッスンに加え、宿題に取り組む時間も。休日には団体でのアイランドツアーなどの小旅行が用意されています。

内容	授業時間
マンツーマンレッスン	4時間
グループレッスン	2時間
宿題時間	1時間
合計	7時間



ジュニア留学ではハンディクラフトの授業や、また、マニラなら郊外のバグサンハーン滝＆急流下りのツアーも楽しめます。



フレンドリーな先生やスタッフが多いフィリピンは親子留学にも最適です。

留学体験談③

スバルタコース セブ島 4週間 S. T.さん

はじめは欧米圏の留学を考えていたのですが、インターネットでフィリピン留学のことを知り、1日最大10時間も勉強できるということで、短期間で集中的に留学しようと決心し、フィリピンへ留学することを決めました。

<授業>

先生は丁寧で熱心に教えてくれます。マンツーマン授業が主体なので、わからないことがあれば、時間の許す限り詳しく説明してくれました。僕が選んだコースは1日マンツーマン5時間、グループレッスン2時間、義務自習、小テストがあり、平日は朝から夜までみっちり授業がありました。はじめは英語だけの環境に慣れるのに大変でしたが、慣れてくると問題ありませんでした。4週間で200時間も英語の授業を受けることができる所以はフィリピン留学のスバルタコースならではだと思います。

<寮・部屋>

寮や部屋は思ったより綺麗でした。僕は3人部屋を選びましたが、問題なく生活することができました。相部屋の2人は韓国人で、その2人の友達

から輪が広がり、学校内でたくさんの友達を作ることができたので、3人部屋にして正解かなと思います。

<授業後・休日>

スバルタコースだったので、平日は外出禁止でした。その分、休日はおもいっきりリフレッシュしようと思い、ダイビングに行ったり、買い物をしたり、フィリピンを満喫しました。

<感想>

短期で英語をとことん勉強したい人にはフィリピン留学のスバルタはオススメです。長期スバルタはしんどいですが、2~4週間であれば、英語の勉強をするぞ！と覚悟を決めれば無理のない期間だと思います。短期でがっつり英語を勉強したい人は、是非ともフィリピンへ！

留学体験談④

親子留学 セブ島 2週間 S. E.さん

7歳になる息子と2人でセブ島に2週間ほど親子留学をしてきました。セブに到着した途端に、南国特有の空気を感じて、いよいよ来たなと実感しました。学校の寮も日本基準とまではいきませんが、息子も問題なく生活できました。フィリピン人の先生やスタッフはみんなとても優しくフレンドリーで、息子は一躍学校の人気者になっていました。笑顔で温かいフィリピン人の気質が大好きです！

<授業>

日中ずっとマンツーマン授業で、常に英語を話さなければいけない環境。最初は英語を間違えていないか不安になり躊躇していましたが、間違えるのも勉強と思い、途中からどんどん積極的に話していました。1:1の環境は逃げられないので、とても良いと思います。フィリピン人の先生もとても親切に教えてくれます。息子もマンツーマン授業を受けていましたが、息子のほうが飲み込みも早く、英語でのコミュニケーションもめきめき上達していました。ちょっと悔しい…(笑)。フィリピン人の先生にとても懐いていました。

<部屋>

息子と2人部屋を利用しました。日本基準ではないとわかつっていましたが、「ここに2週間か…」と思いました(笑)。ただ少し経つと環境にも慣れ、部屋でもリラックスできるようになりました。気をつけなければいけない点は、暑い国なので、お菓子などを放置しておくと、アリが寄ってくることでしょうか。必ずゴミ箱に捨てましょう。

<授業後・休日>

休日は息子を連れて、リゾートホテルのプールなどに行きました。宿泊客ではなくても数百ペソ払えば使用できます。セブにはとても大きなプールがあるリゾートホテルが多いので、子供は1日中遊べちゃいます。その他にもお洒落なレストランやスパなどもあるので、女性もとても楽しむことができます。マッサージは1時間なんと200ペソくらいでできちゃうんですよ！

<感想>

2週間、あっという間に終わってしまいました。行く前は、親子留学ならやっぱりハワイにしようかな~と思っていましたが、いざセブ留学を終えてみると、本当にセブを選んで正解だったと心から思いました。英語を学習する環境が予想以上に整っていました。ジュニアキャンプなどもあるうなので、息子には毎年セブに行ってもらい英語を勉強してもらおうと思います。小さい頃から外国人の人とコミュニケーションをとれるのは重要なと思います。もはや私の英会話コミュニケーションを超えていたかもしません(笑)。

もっと楽しいフィリピンを満喫! 学んだ英語を実践する

フィリピンには多数の見所やアミューズメント、マリンスポーツ等の魅力があります。限られた滞在時間の中で、これだけはと思われる「世界遺産」とマリン

世界遺産

1 トゥバタハ岩礁自然公園

Tubbataha Reefs Natural Park

パラワン島スールー海

1993年自然遺産登録

交通 マニラからパラワン州の州都ブエルト・プリンセサまで国内線で約1時間。セブ島からも便があります。そこから、トゥバタハ岩礁へはダイビング・クルーズを利用します。4月と5月がベストシーズン。



2 フィリピンのバロック様式教会群

Baroque Churches of the Philippines

フィリピン各地 1993年文化遺産登録

16世紀～18世紀にかけて建造されたバロック様式に教会が、フィリピンの各地に当時の景観を今に伝えていきます。そのうちの4つの教会が世界遺産に登録されています。地震が多い地形のため、頑丈な石造りの建物が特徴です。

a) ミアガオ教会 Miagao Church

パナイ島イロイロ郊外

交通 マニラからイロイロまで国内線で約1時間。セブ島からも便があります。

b) パワイ教会 Paoay Church

ルソン島北イロコス州ラワグ郊外

交通 マニラからラワグまで国内線で約1時間。またはマニラから長距離バス・車で約10時間。バギオから車で約6時間。

c) サン・アグスチン教会

San Agustin Church

マニラ市イントラムロス(城壁都市)内

交通 ベイエリアから車で約15分、マカティ地区から車で約50分。

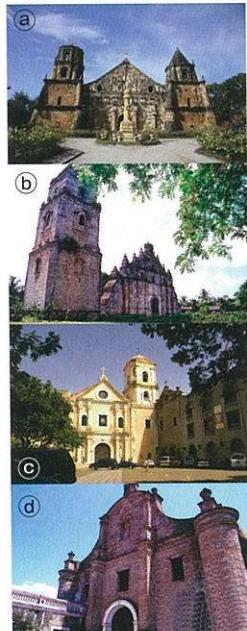
d) サンタ・マリア教会

Santa Maria Church

ルソン島南イロコス州

別名 Nuestra Señora de la Asuncion
(Our Lady of Assumption=聖母昇天)

交通 ラワグから車で約2時間30分、ビガンから車で約40分。マニラから長距離バス・車で約8時間。バギオから車で約3時間。



3 フィリピン・コルディリエーラの棚田群

Rice Terraces of the Philippine Cordilleras

ルソン島北部の中央山岳地帯
イフガオ州

1995年文化遺産登録 ※危機遺産

交通 有名なバナウエ・ライステラス(Banaue Rice Terraces)まで、マニラからバヨンボング経由の車またはバスで行くのが一般的で、所要約10時間。なお、バギオからならボントック経由で約10時間ですが、途中様々なライステラスを見ることができます。



スポーツの代表である「スキュー・ダイビング」を紹介します。旅先で出会う様々なシーンを楽しみながら自身の英語力をブラッシュアップしましょう。

4 歴史都市ビガン Historic Town of Vigan

ルソン島南イロコス州

1999年文化遺産登録

交通 ラワグから車で約2時間。マニラから長距離バス・車で約8時間。バギオから車で約5時間。



5 プエルト・プリンセサ地底河川国立公園 Puerto Princesa Subterranean River National Park

パラワン島プエルト・プリンセサの北約50km

1999年自然遺産登録

交通 マニラからパラワン州の州都ブエルト・プリンセサまで国内線で約1時間。セブ島からも便があります。そこから地底川の玄関口であるサパンまではジープニーまたはコースターで約3時間。



6 ハミギタン山岳地帯野生動物保護区 Mount Hamiguitan

ミンダナオ島ダバオ・オリエンタル州

2014年自然遺産登録

フィリピン第6番目の「世界遺産」。ダバオ・オリエンタル州の3つの行政区 Mati, San Isidro, Governor Generoso に広がる 6,834ha の森林。標高 1,620m の森には 1,380 種の動植物が生息、その内の 341 種の絶滅危惧種には、フィリピンの国鳥で世界第2の大型猛禽類フィリピン・イーグル、コカトゥー(大型オウム)、ターシャ(世界最小と言われる原始猿)、アジア・ジャコウネコ、タリクテイック・ホーンビル(サイチョウ)他 53 種の鳥類、多種類のランの花等が含まれます。



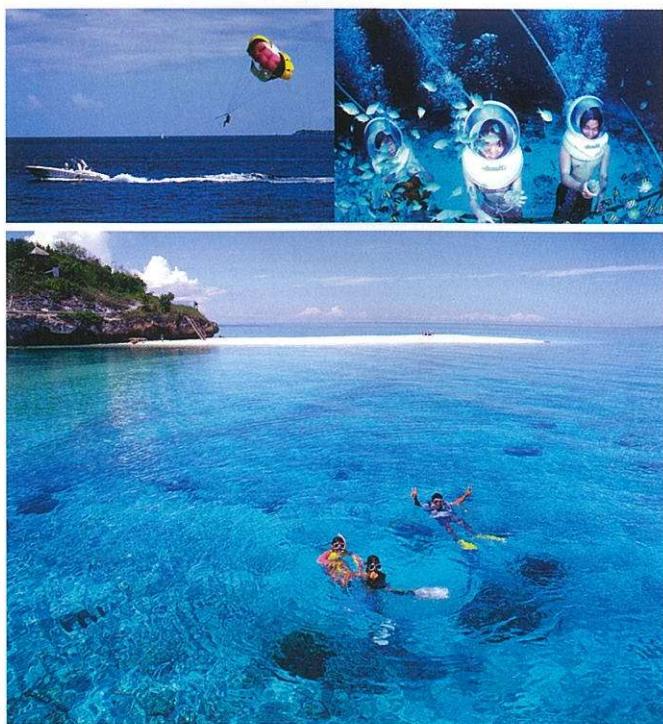
マリンスポーツ

スキューバ・ダイビングをはじめ、ウインドサーフィン、ジェットスキーなど、フィリピンはマリンスポーツの宝庫ですが、限られた滞在期間の中でもぜひとも体験して欲しいのが、世界中のダイバー達の注目を集めているスキューバ・ダイビングです。バラエティに富んだ美しいサンゴや色鮮やかな熱帯魚、回遊魚が遊ぶ海底世界を満喫してください。

ほとんどのリゾートにダイブショップがあり、ダイビング・インストラクターが常駐しています。ダイビング器材やウェットスーツのレンタルもあるので、水着だけでも手軽に体験できます。また、ダイビング・ライセンス取得コースを用意しているところもあり、ほぼ3日間でライセンスを取得することも可能です。日本人インストラクターが常駐しているダイブショップ＆リゾートも多数あります。

以下のエリアが、主なダイビング・エリアです。（ ）内はその基地となる都市又はリゾートです。

- マニラ南郊アニラオ／プエルト・ガレラ
(マニラ)
- セブ(セブ市、マクタン島のリゾート)
- ボホール周辺(ボホール、バリカサグ)
- ドゥマゲテ周辺
(スマilon、アボ、シキホール)
- ボラカイ(イロイロ、セブ)
- ミンダナオ島(ダバオ・パール・ファーム)
- 北パラワン
(エルニド、アマンプロ、クラブ・バラダイス、アブリット)



フィリピンはスキューバ・ダイビング他、マリンスポーツ天国。素晴らしいマリンライフをご体験ください。

フィリピン・ロングステイのすすめ シニア留学体験談 (N.H. 様)

63歳のリタイヤを機に英語勉強のため2回行ってきました。2010年秋、2011年冬各3ヵ月の滞在でしたがその時の様子をご参考までにレポートします。

1)出発前、国内にて

英語学校への入学ですので、ある程度の基礎力が不可欠と思い渡航前にNHKラジオ英語講座の受講、TOEICや英検にもチャレンジし準備をしました。特に英語から遠ざかっていた人は基礎英文法や基礎単語をやっておくと楽になります。文法用語も英語でひと通り覚えておく事をお勧めします。

2)授業

入学初日に英検に似たテストがありクラス分けされます。私は1:1が2つ、1:4、1:8各1つの他に、初年度はTOEIC、リスニングクラスを、2年目はリスニングクラスを追加しました。追加クラスは無料ですが内容が濃いので受講をお勧めします。先生方は熱心でレベルは高く、学校の教育システムも充実していると感じました。ときどき宿題が重なる日がありますが、ライブラリにこもり準備をした事も良い思い出になりました。

3)学校生活

学生は韓国の大学生、中、小学生が多くヨーロッパの人も拝見しました。日本人は学生の他にリタイヤした人も大勢学ばれています。皆さん海外志向の人が多く、積極的にフレンドリーで、それぞれの人生経験から学ぶ事も多く、授業以外のお付き合いもさせてもらいました。ランドリー、食堂、部屋のクリーニングも無料ですので大変助かりました。

4)健康管理

多い病気としては、風邪、下痢等です。冷房の利きすぎの教室がありますので、長袖やカーディガン等が必要となります。私も毎日学校の周りを早朝散歩し体調に注意していましたが、風邪で近くのセブ・ドクター・ホスピタルにお世話になることもありました。常備薬の他に目薬、うがい薬の持参をお勧めします。

5)アクティビティ

金曜は半日の授業、土、日は休みでしたので、初年度はティツアー、ショッピング、アイランドホッピング等を楽しみました。幸い初年度にダイビングの資格が取れましたので、2年目は毎週ダイブに通いました。セブのまわりの海には特別保護区のスポットが沢山あります。興味のある人は安く資格が取れますのでチャレンジをお勧めします。ただ資格取得前に200m水泳チェックがありますので国内で事前に水泳練習されたらと思います。

6)結果

英語の進歩は本人の努力次第ですが、リスニング力や会話力等は確実に向上出来たと思います。勉強とは別にセブでの生活も経験出来ます。多くの先生や学生と知り合いになり、英語以外でも有意義な日々を過ごせました。



フィリピン観光省主催のロングステイセミナーの様子

フィリピン留学の基礎知識

フィリピン留学に必要な手続き

出発前に必要なもの

- パスポート
(有効残存期間: 滞在日数 + 6ヶ月間以上)
- 航空券
(復路又は他国への出国チケットが必須)

現地で必要な手続き (学校が代行してくれる)

- ビザの延長手続き
(滞在が31日間以上の場合)
- SSPの申請
(地域によって申請の有無が異なります)
- ACRIカードの申請
(地域によって申請の有無が異なります)

ビザの延長費用

* 1 P = 約2.52円(2014年11月4日)

延長回数	延長費用 (フィリピンペソ)	滞在可能日数	滞在可能週数
1回目	3,140 P	入国から59日間	8週間
2回目	4,410 P	89日間	12週間
3回目	2,440 P	119日間	16週間
4回目	2,440 P	149日間	20週間
5回目	2,440 P	179日間	24週間

SSP(特別就学許可証)とは?

SSP (Special Study Permit) は、観光を目的として入国した外国人が、フィリピン国内で合法的に勉強をするために必要な許可証の一種で、滞在を特別に許可するものです。フィリピンでの留学においては SSP が必要となります。

ACRIカードとは?

ACRI-Cardとは、いわゆる外国人登録証で、フィリピンに60日間以上滞在する外国人、もしくは SSP 取得者に対し、外国人登録証を取得することが義務付けられています。これは移民局に登録された外国人のフィリピン法的居住資格の証拠として活用されます。

フィリピン英語留学に関する問い合わせ先

- 一般財団法人 フィリピン留学普及協会
PSAA = Association for English Studies in the Philippines
TEL: 03-3804-8778 FAX: 03-3804-8778
E-mail: info@psaa.jp
Web <http://www.psaa.jp>

- NPO留学協会(Study Abroad Support Council)
内閣府認証NPO(特定非営利活動法人)
法務省認証 留学に関する民間調停所(ADR)
TEL: 03-5282-8600 FAX: 03-3291-4126
E-mail: npo@ryugakukyokai.or.jp
Web <http://www.ryugakukyokai.or.jp>

DOTとPSAAによる「フィリピン英語留学フェア」を開催

フィリピン政府観光省(DOT)は毎年、財団法人 フィリピン留学普及協会(PSAA)と共に、「フィリピン英語留学フェア」を開催しています。同フェアにはフィリピンのマニラ、セブ、バギオ、バコロド、イロイロ、クラーク、タルラク、ダバオ、タガイタイ等にある合計50前後の英語学校が参加し、プレス&メディア、企業、旅行業界関係者及び学生、社会人、リタイアメント、

教師、親子留学等の希望者等を対象に英語留学のプロモーションとセミナーを行います。これまでに、東京の渋谷、新宿で開催しましたが、今後も定期的に同フェアを開催していきたいと考えております。開催日詳細につきましては、フィリピン政府観光省(DOT)又は(財)フィリピン留学普及協会(PSAA)までお問い合わせください。

- フィリピン政府観光省・東京事務所: TEL: 03-5562-1583
- (財)フィリピン留学普及協会: TEL: 03-3804-8778

フィリピン留学よくある質問 (Q & A)

Q. 英語がまったく話せませんが大丈夫ですか？

問題ありません。フィリピン留学は基本的に講師と1対1のマンツーマン授業が主体です。あなたのレベルにあった授業を受けることができ、講師が親身に教えてくれます。

Q. 年齢制限はありますか？

年齢制限はありません。10代～70代の幅広い年齢の方が留学しています。15歳未満は、渡航前に日本国内における身元保証を行ったうえで、公証を受ける必要があります。

* フィリピン国籍以外の15歳未満の未成年者は、有効な査証を有しても、単独または親(離婚している場合は親権者)の付き添い無しにフィリピンへ渡航する場合、Waiver of Exclusion Ground (WEG)が必要です。

Q. フィリピン人講師の訛りは問題ないですか？

学校で生徒に英語を教える講師は、訛りはほとんどなくネイティブに近い英語を話します。街に出ると多少の訛りは気になるかもしれません、学校の講師は基本的に訛りはほとんどありません。他の国に留学しても、訛りの強い講師はいま

すので、フィリピン人だからということは特に気にしなくても大丈夫でしょう。

* 講師の資格について：四年制大学卒業生で、尚且、外国人に英語を教えて良いという試験を合格した人が講師になれる資格を持つことができます。学校によってはさらに独自の講師採用試験を実施し、試験の合格者のみを講師として採用するところもあるようです。

また、フィリピンの人々は教師という職業にとても向いていると言われます。世界各国で看護や介護など、他人を手助けする分野で活躍しているように、大家族主義の中で培われたフィリピン人独特の“おもてなし精神(フィリピーノホスピタリティ)”と協調性に由来しているようです。

Q. フィリピンの治安はどうですか？

海外渡航する際に注意しておく基本的なことを守っていただければ問題ありません。暗い道を一人で歩いたり、なんとなく怪しい雰囲気のお店に入ったりしないように。フィリピンで一番多い犯罪はスリや置き引きですので、貴重品の管理には注意深く心がけましょう。

Q. フィリピンのインターネット事情はどうですか？

ほとんどの語学学校で使用することができます。

Q. 現金はいくら位持つていけばいいですか？

物価は安いので、1週間1万円程度を見越しておけば、余裕を持って滞在することができます。

Q. 両替はどこでできますか？

フィリピンの各都市のショッピングセンターにある両替所で両替できます。

Q. どれくらい前から申込みをすれば良いですか？

余裕をもって2ヶ月～3ヶ月前に申込みするようお奨めします。遅くとも1ヶ月前までは申込みましょう。学生が休みの時期はかなり混雑するため、早い段階で学校の部屋が満室となります。

Q. 最短でどの位の期間からの留学が可能でしょうか？

多くの学校が最短で1週間からの留学が可能です。

Q. フィリピンでTOEFL、TOEICなどの試験は受講可能ですか？

TOEFL、TOEIC、IELTSなどの試験を受講することができます。試験日と会場が事前に決まっているので、留学前に日程を調整してください。

フィリピン・トラベルメモ

●**パスポートとビザ(査証)**：パスポートは滞在日数+6ヶ月間以上の残存期間が必要です。ビザは30日間以内の滞在は不要。ツーリスト・ビザの有効期間は59日間。両親のいずれもが同伴しない15歳未満の少年・少女は事前の入国許可が必要です。申請・問い合わせは下記へ。(上記のQ&A「年齢制限」の項参照)

* 在日フィリピン共和国大使館
東京都港区六本木5-15-5

TEL: (03) 5562-1600

* 在大阪・神戸フィリピン共和国総領事館
大阪府大阪市中央区見2-1-61
Twin 21 MIDタワー24階
TEL: (06) 6910-7881

●**予防接種**：種痘もコレラも、汚染国を経由しない限り不要。

●税関(免税の範囲)：

- ・酒類2本(未成年者を除く)
- ・タバコ400本(or 葉巻50本 or パイプ用250g)
- ・1万ペソ以内のフィリピン通貨の持込み、持出し。(原則として外貨の持込み、持出しは無制限)

●**通貨**：1ペソ(P)=100セントボ(¢)=約2.52円。US\$1=約45.00ペソ。米ドル、日本円ともに使えます。

※2014年11月4日現在

●**空港税**：マニラ国際空港及びセブ国際空港出国時に550ペソが必要ですが、ほとんどの場合、チケット代金と共に事前に支払われます。その他の地方都市の空港でも空港税が必要な場合があります。

●**電話**：空港やデパートなどの公衆電話、ホテルの客室の電話、電話局などから、国内／国際電話がかけられます。カード式公衆電話は国際電話をかけることもでき、500ペソ(約1000円)のカードで約13分の通話が可能です。テレホンカードはコンビニエンスストアなどで購入できます。デラックスクラスのホテルでは、国際直通ダイヤル(IDD)システムを利用し、IDDでない場合は、ホテルの交換台に申込みます。

◆フィリピンから日本への国際電話のかけ方
※東京(03)1234-5678の場合

国際電話識別番号(00) +

日本の国番号(81)

例: 00 + 81 + 3 + 1234 + 5678

◆日本からフィリピンへの国際電話のかけ方

※マニラ(02)123-4567の場合

国際電話会社の番号(001他) +

国際電話識別番号(010) +

フィリピンの国番号(63)

例:(001他)+010+63+2+123+4567

●**時差**：日本より1時間遅れ。日本の正午はフィリピンの午前11時。

●**電圧**：220ボルト、60ヘルツ。

<フィリピン国内の交通機関>

●**空路**：国内線航空会社各社がマニラを基点に、セブ、ダバオ、バコロド、イロイロ等の主要都市を結んでいます。

●**バス**：マニラを基点に、クラークやバギオ他の北部ルソン、バタンガス、レガスピ等の南部ルソンを結ぶ長距離バスが多数運行されています。

●**タクシー**：メーター制で基本料金40ペソ、以後3.50ペソずつ加算。空港到着ロビーにはAVISやニッサン等のレンタカー会社がデスクを置いています。ホテルのタクシーと同様に少し割高ですが安心して利用できます。

●**その他の交通機関**：一般庶民の足が“ジープニー”(ジープを改造した相乗り路線バス)と“トライシクル”(改造バイクの三輪車)。マニラには高架鉄道(LRT & MRT)があり、市内の南北と東西を結んでいます。現地で事前に確認してから利用しましょう。